第３３７回　令和８年１１月２６日（木）

「高さと険しさは一致しません」

日本で一番高い山は皆さんご存じの富士山です。山というからには危険が伴うことは当たり前なのですが、険しさはそれほどでもなく、しっかりとした装備で時期を守れば高齢者でも子どもでも登ることができます。

富士山より低い山でもザイルなどを準備して熟練したクライマーでないと登れないほど険しい山はたくさんあります。苦労して頂上を制覇したときの喜びはひとしおでしょう。

さて今日のお話は登山のことではなく、目標についての考え方です。目標までにどのような行程で進むべきなのか、計画をたてて臨むことと思います。ここで覚えておいてほしいことは目標の高さ、低さは評価されるべきではないということです。

全国優勝目指して努力するチームがいたとします。目標に対して毎日どのような努力をするべきなのか、日々の一歩が決まります。苦しいこと、大変なこともたくさんあると思います。

一方で初勝利を目指そうということを目標に掲げたチームがいたとします。こちらもそれに向けた一歩が必要です。全国優勝が富士山だとしたら、こちらは近隣の丘くらい高さに違いがあるかもしれませんが、どちらが大変で、どちらが尊いということはありません。

私もバスケットの指導者時代、部員が二人になったことがありました。合同チームで大会に出ました。部員を集めるところから始めて数年後に県 16 まで到達するまで、本当に苦しい毎日でしたがその年ごとの目標を定め、一歩ずつ進みました。
いまになれば選手が集まって結果を残さなくてはいけない年も、このように選手集めから始めなくてはいけなかった年も、どちらも道のりの険しさは変わらなかったような気がします。

最初に着任した学校は今では考えられないくらい生徒数が多く、時代の影響からかかなり荒れていました。最初は部活を教えられる状況ではなかったのですが、県内でも荒廃して有名な学校を「バスケットでは強い学校で有名にしよう」という目標を立てて選手を集めるところから始めました。

紆余曲折ありましたが初めて県大会に出られたときは会場で涙が止まりませんでした。そのころは関東大会も全国大会も雲の上のような話で目標どころかどうすればいけるのかも知りませんでしたが、県大会に出場できたということが最高の思い出になりました。
それぞれの目標に向かってゆっくりでも、急いででも一歩は一歩です。どれも大事な一歩出会って、評価や比較をするものではありません。